

高根沢町新庁舎整備検討委員会 議事録

会議名	第12回 高根沢町新庁舎整備検討委員会
日時	令和6（2024）年1月18日（木）13：30～14：15
場所	高根沢町図書館中央館2階 アートホール
出席者	<p>【委員】 佐藤栄治、牧恒男、笹崎明久、佐藤永倫、山崎康之、檜山武郎 稲葉和彦、見目智史、寺内明日美、横田孝夫、加藤正秋、櫻井典子 軽部守人、二宮絵美 （※欠席：小林修、山本容子、小林信江、栗橋幸子、五月女昌寛）</p> <p>【事務局】 石嶋課長、國友課長補佐、大貫係長、松山主事</p> <p>【オブザーバー】 ※梓・AIS・八千代エンジニアリング共同事業体 阿部光伸、飯塚進太郎、石野順</p>
傍聴人数	2人（内報道関係者2名）
内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）高根沢町新庁舎整備基本計画（素案）について 事務局より資料に基づいて説明を行った。</p> <p>委員：P14の基本方針2-整備方針3にて災害発生時に自家発電設備を72時間以上稼働できるように整備すると記載があるが、これは災害対応等に必要な機能を72時間以上継続するために必要な電力等を確保できる設備を整備するという認識でよいか。</p> <p>事務局：お見込みのとおりである。</p> <p>委員長：防災の観点では、人間が生命を維持できるとされる時間の目安として72時間という数字が設定されている。 災害発生から72時間は災害対応等の機能維持を最低限担保できるように努めるという意味であることを認識してもらえればよい。</p> <p>委員：P21の8 施設計画における、集約・複合はそれぞれどのような意味として記載されているのか。</p> <p>事務局：別々の建物にある様々な機能について、「同じ機能のものを1つの建物にまとめることを集約」、「違う機能のものを1つの建物にまとめることもしくは機能を上乘せすることを複合」として整理している。</p> <p>委員：概算事業費（税抜）の50億円の内、農村環境改善センター・保健センター・福祉センターを複合するために発生する費</p>

用はどのくらいの割合を占めているのか。

事務局：基本構想の時点では出先機関である教育委員会部局や上下水道事務所などの本庁舎機能の集約を想定し、約 5,000 m² という延床面積を設定していたが、町民広場内の 3 施設の一部機能の複合について精査した上で、新庁舎に集約・複合化していくことを目指すこととなったため、想定延床面積が 500 m² 増える形となった。その増加分が概算事業費にも反映されている。

委員長：ここ最近では建築資材の原価が大きく変動している。将来的な価格は予想できない部分もあるため、先行事例や現状の原価を基準として概算事業費を算定していると思われる。

事務局：まず参考としたのは他自治体の先行事例の平均値である。また発注した年度により資材価格の変動があるため、現在の価格基準に適合するように積算し、概算事業費を設定している。

委員：庁舎の階層が未定の状態で、どのような建物を想定して概算事業費を設定しているのか。

また、階層が変われば検討すべき構造種別も変わるのではないか。

事務局：例えば 2 階建てでも 3 階建てでも、想定した延床面積の規模で建築することで算定している。

また、構造種別については 3 種別それぞれ精査した上で一番単価が高い鉄筋コンクリート（RC）造での建築を想定し、概算事業費を算定している。

委員：議会の会議室等について、会期以外における多目的利用は検討しないのか。

事務局：現時点で決定している事項はないが、これからの設計業務においても引き続き議会と協議・調整を続けていく予定である。

委員：例えば喫茶コーナーのような住民の方がくつろげるスペースの整備も検討してほしい。

事務局：意見として頂戴する。

委員：町民ホールと農業者トレーニングセンターに係る複合施設の整備の方針は決定しているのか。

事務局：公共施設のあり方検討委員会から「町民ホールと農業者トレーニングセンターを複合した施設を整備することが望ましい」という答申は受けたが、それに対する町の方針はまだ決定していない状況である。

委員長：他に意見がなければ、本日示された基本計画の素案については委員会として承認することとしてよいか。

委員全員：異議なし。

委員長：本日の資料を基に事務局は基本計画に係る答申案の作成をしてもらいたい。

事務局：承知した。

3 その他

(1) 次回開催日程について

次回の委員会は令和6年1月31日（水）に開催予定の旨を伝えた。

4 閉会